

No.65



スギの丸太の輪切り (小野市立河合小学校)

有但是自然多次

HYOGO KENRITSU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

Nature Education Center

自然体験活動の



副校長 村上 慶光 兵庫県立南但馬自然学校

者任してから、はや1年がたとうと 着任してから、はや1年がたとうと を見上げながら通勤する毎日です でなく、四季折々に大変美しい姿を 見せてくれます。特に冬の間は、夜 にライトアップされ、闇夜に浮かび にライトアップされ、闇夜に浮かび あがる姿は、一層幻想的な雰囲気に あがる姿は、一層幻想的な雰囲気に おかげさまで、本校は、今年度で おかげさまで、本校は、今年度で おかげさまで、本校は、今年度で

終了しましたことに対して心から感 と共に、今年度の受け入れが無事に 学校の先生方のご努力に敬意を表す 然学校を企画運営されたそれぞれの 日の間、 特色を生かした様々な体験活動を実 す。有り難うございました。 ました。 謝を申し上げます。有り難うござい ごしていたかがよく分かります。自 どを読ませていただいても、4泊5 施されました。子どもたちの感想な ができました。それぞれの学校が、 校73校の自然学校をお迎えすること 十分な事前指導や準備の後、 同心から感謝とお礼を申し上げま また、今年度も、県下の公立小学 彼らがいかに生き生きと過



の生徒の皆さんの若い力も借りた里や県立山崎高等学校、県立山の学校

20周年記念ふれあい

晴台を作ったのもその一つです。ま

た、春、夏、

秋それぞれの里山の美

しさを体感できる遊友体験活動事業

跡を3km先に望む絶好の位置に見トとして実施してきました。竹田城

中心に、様々な事業をリレーイベン間、10月22日の記念シンポジウムを開校20周年を迎えました。この一年

さんのご参加ご協力をいただき無事フェスティバルなど、大変多くの皆

に実施することができました。職員

ち出していきたいと考えています。の自然学校の目指すべき方向性を打の自然学校の中核施設として、機とし、自然学校の中核施設として、機とし、本校では、開校20周年を契さて、本校では、開校20周年を契



定志向も垣間見えます。 自然学校推進事業も27年目に入り、自然学校推進事業も27年目に入り、自然学校推進事業も27年目に入り、自然学校推進事業も27年目に入り、

心、他者への思いやりの心やコミュ験値を上げるか、自己有用感や自立ている中で、いかに子どもたちの経験が一層希薄になっていると言われ験が一層希薄になっていると言われるか、子どもたちの実体験・自然体

が必要だと感じています。自然そのもが必要だと感じています。自然そのもいう五感で自然を感じる体験活動を行いう五感で自然を感じる体験活動を行いう五感で自然を感じる体験活動を行いう五感で自然を感じる体験活動を行いう五感で自然を感じる体験活動を行いう五感で自然を感じる体験活動を行いるではなく、プログラムの準備から後のではなく、プログラムを実施すること、さらいではなく、関系の活動をつなぎ合わせるのではなく、ガログラムを実施すること、さらいではない、様々な場面で子どもたちが主体的に、様々な場面で子どもたちが主体的に、様々な場面で子どもたちが主体的に、様々な場面で子どもたちが主体的ではないがと考えます。

いたします。

今後とも、どうぞよろしくお願い生方にもお伝えしていきたいと思いま明会や出前授業等を通して各学校の先明会や出前授業等を通して各学校の先明会を出前授業等を通して各学校の先



E 馬自



兵庫県立南但馬自然学校 主任指導主事兼指導課長 北 條 勝 也

最後に、兵庫野外教育研究会代表

耳を傾けたりして、自然学校が果た 践発表やパネルディスカッションに 員などが参加し、子どもたちの実際 長や教諭そして自然学校受入施設職 用校や地元朝来市、養父市の小学校 記念リレーイベントの一環として、 馬自然学校で10月22日、開校20周年 す役割などについて思いを新たにし なう自然学校」のテーマのもとで実 の活動を見学したり、「自立へいざ シンポジウムを行いました。本校利 開校20周年を迎えた兵庫県立南但

挨拶がありました。 様と垣尾幸博朝来市教育長様の来賓 教育長が主催者を代表して挨拶を行 長の開会のことばの後、 開会行事では、本校の山田卓三校 引き続き、岩根正但馬県民局長 高井芳朗県

ました。

て木を倒すことができました。当日 命に感謝をして、全員で力を合わせ 48人が木伐採体験を行い、ヒノキの その後、 小野市立河合小学校児童



氏から「木 場に移し、 樹木医であ ら大屋根広 たため、そ は雨であっ の宮田和男 る宮田樹業 を雑木林か の後、会場

思った」と、「くらしとのつながり」 りシートには、「木も人間と同じで あったと考えられます。 学びが深く、印象に残った活動で とり、人間の暮らしと似ているなと 命があり、生きていくためには水を 繋げていきました。子どもの振り返 らは、自然学校の思い出クラフトに 丸太の輪切りに挑戦しました。それ の一生」を学び、自分たちでスギの に触れていた女子がいて、それだけ

幹教諭による「『染め木』を組み込 明石市立清水小学校の河合健次主

解を深める必要性」等と、現在自園

どを紹介されました。 びつけ、また、6か年を見通した里 せる染め木体験から事後の学習に結 発表では、伐採した木に色水を吸わ 自然との共存・共生を考える内容な 山体験プログラムに位置づけるなど、 んだ自然学校」をテーマにした実践

然学校での体験の活かし方や今後の き、4人のパネリストによる「自立 えるきっかけとなりました。 をして、今までの自然学校を振り返 自然学校の在り方について意見交換 員の意識改革」等の問題提起や、 ました。「指導補助員への指導」や「教 の山田誠氏をコーディネーターに招 たパネルディスカッションを実施し いざなう自然学校」をテーマにし

自

発信による原体験の意義について理 体験の意義を知る機会を持つ必要 要性から、実地型の研修を通して原 験がある七松幼稚園の亀山秀郎園長 の意見が出ました。指導補助員の経 なる思い出づくりの場からの脱皮」 然体験の場の確保と質の向上」「単 日常体験(自然学校)からの学びの からは、「幼児教育での原体験の重 日常化」「先生を含めた指導者の自 阪国際大学の髙見彰教授からは、「非 兵庫県キャンプ協会会長であり大 」「自然学校の事前、 事後の情報 等

> 解の必要性」について、担当者の強 の松本隆教諭からは、自然学校での 利用校である三田市立松が丘小学校 や葛藤を解決する体験の設定」につ 事後学習のストーリーが難しいことや 学校現場では、 和子校長先生からは、多忙を極める 校である小野市立来住小学校の中村 られました。また、平成25年度利用 ディキャンプの実践から意見を述べ で取り組んでいる教員研修と、親子 い思いが語られました。 いの明確化と指導者全員での共通理 んな力をつけたいのかという「ねら ているので、その活動を通して、ど 活動そのものが目的となってしまっ いました。そして、平成23・25年度 いて、管理職の立場からの意見を伺 自尊感情を育むための様々な困難 自然学校の事前から

当日このシンポジウムに参加され



ることを期待しています。 自立へいざなう自然学校を目指され るとともに

南但馬自然学校調査・研究委員会から

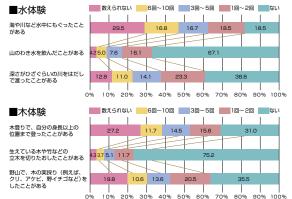
本校では、平成25・26年度の2年間にわたり、「子どもたちの原体験の現状から見る今後の自然学校の在り方」 をテーマに、利用校の協力を得て、調査・研究を進めてきた。以下、概略を報告するとともに、詳細は「平成25・ 26年度研究紀要」(平成27年3月発行)をご覧ください。

原体験の有効性、大切さをさらに詳しく検証していく部会の取組

平成26年度は、原体験アンケート、原体験と日常生活との関連性等の調査・研究を進めた。子どもの原体験の現状 をさらに詳しく把握するために、質問項目を前年度までと少し変更した原体験アンケート結果について紹介する。今年 度、本校を利用した県内公立小学校の小学5年生を対象に調査を行い、全ての項目に正しく回答した 2,672 名 (男子 1,341 名、女子 1,331 名) の「原体験度」について、「数えられないほどある」「 $6 \sim 10$ 回ある」「 $3 \sim 5$ 回ある」「 $1 \sim 2$ 回ある」 「まったくない」の5段階尺度で、8つの原体験のそれぞれの質問項目における「体験度」の分析を行った。分析の際 に用いる数値は、(各段階の回答人数)÷総回答数×100で算出し、小数第2位を四捨五入したものである。

★8つの原体験のうち特徴的な「水体験」と「木体験」についての児童全体の傾向について考察した。

水中にもぐる体験は、「数えられないほどある」と回答した割合が29.5%と最も高く、各段階とも20%弱で平均的



な数値となった。わき水を飲む体験は、67.1%が「まったくない」 と回答し、体験頻度が高いほど割合は低くなっている。はだし で川を渡る体験は、「数えられないほどある」の12.8%をはじめ、 体験があると回答した割合が60%を越えている。

木登り体験では、「まったくない」の回答が31.0%と高いが、「数 えられないほどある」の回答が27.2%あり、両極端な結果となっ た。木の伐採体験では、「まったくない」の回答が75.2%と非 常に高く、8つの原体験で、全ての質問項目のうちで最も体験 が乏しい結果となった。木の実採り体験では、「まったくない」 の回答が35.5%と最も高く、次に「1~2回ある」の20.5%と続く。

「水体験」や「木体験」の結果から、日常生活圏にわき水が ないことやわき水がある場所に出かけることが少ないことが考 えられ、木を伐採することが日常生活の中で必要性に迫られて

いないことが考えられる。このような日常生活では体験しづらいことを取り入れた自然学校のプログラム編成を考える ことで、児童が「本物に出会う感動体験」を通して、人間としての在り方生き方を考え、社会の一員としての自覚を深 めることに期待したい。

(文責 主任指導主事 御栗 康嗣)

木(竹) 伐採に関するアクティビティ実践とその有効性を検証していく部会の取組

2学期に木(竹) 伐採を実施した 10 校のうち8校に、活動後「伐採ふり返りシート」による調査を依頼した。そして、 その調査結果について検証を行い、「木(竹)伐採」を組み込んだ自然学校の必要性について考察した。

〈検証課題〉 自然学校に「木(竹)伐採」を組み込むことによって、児童の表現を引き出し、その語彙(ごい)を 豊かにすることができるのではないか。

「木(竹)を切ったり倒したりする時、どんな感じがしましたか?」という設問において、8校の児童413名(回収児 童数 402 名・回収率 97.3%) の回答表現について、以下の4つに分類した。

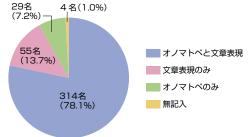
1 オノマトペ(擬声語)と文章表現

2 文章表現のみ

3 オノマトペのみ

4 無記入

その結果については、下図のとおりである。



「さわり心地はガサガサでいたかったです」等「オノマトペ(擬声語)と文章表現」の児童が314名(78.1%)、「木は 意外と固かった」等「文章表現のみ」の児童が55名(13.7%)、「メキメキー」 等「オノマトペのみ」の児童が29名(7.2%)、「無記入」の児童は4名 (1.0%) だった。

> この結果から分かることは、一人一人の児童の語彙の多少や表現力の 差異があるにも関わらず、木(竹)伐採を体験した児童のほぼ全員が自分 の聴覚、触覚、嗅覚で感じ取ったことを回答できていることである。

> 日頃の学校生活において、語彙が豊富な児童は、概ね「オノマトペと 文章表現」「文章表現」で回答し、語彙が少ないと思われる児童について は、「オノマトペ」だけで回答していたと実施校の担当者は述べていた。

図「木(竹)伐採実施校児童の回答表現について」 このように、木(竹)伐採において実際に五感で体験したこと、しかも それが感動体験としてインパクトがあればあるほど、児童の表現を引き出すことができると考える。また、「原体験の 必要性」を提唱している山田卓三本校校長は、著書「生物学からみた子育て」(1993, 裳華房)で、次のように述べている。 「原体験の欠如は言葉も乏しくしています。豊富な原体験は語彙も表現も豊かになります。いくら表現の技術を習っ ても、感動がなければそれは生きてきません。」

以上のこともふまえ、自然学校に「木 (竹) 伐採」を組み込むことによって、児童の表現を引き出し、その語彙を豊か にすることができると考えられる。

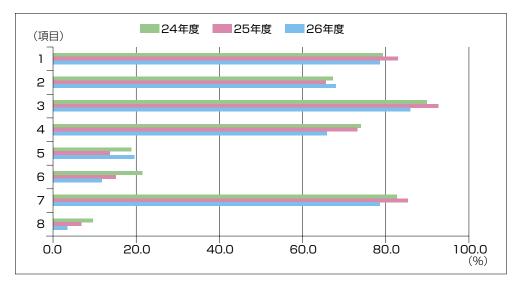
日常生活ではなかなか体験が難しい「立木(竹)を切り倒す体験」が、自然学校では十分活動に取り入れることができ る機会であることもふまえ、「木(竹)伐採」を組み込んだ自然学校プログラムを検討されてはいかがでしょうか。

(文責 主任指導主事 山根 伸治)

平成 26 年度の自然学校実施報告書から

平成26年度は、51グループ(73校)の利用があり、利用校から自然学校実施報告書を提出していただいています。 下記の「自然学校のねらい」で十分達成出来たとの回答(複数回答可)についてまとめます。

- 自然に関する興味・関心を高める
- 2 自主性・主体性を培い、判断力を身につけさせる
- 4 さまざまな活動を通して、豊かな感性を育む
- 5 健康増進を図る
- 6 地域とのふれあいを通して感謝の心や奉仕する心を養う
- 3 集団生活を通して協調性を高め、思いやりの心を育てる 7 成就感・達成感を味わわせ、新たな課題に取り組む意欲を育てる
 - 8 その他



左記のグラフは、平成 24年度から26年度の 過去3年間において、上 記の項目で「十分に達成 できたと思われる」と回 答があった項目を全体に 対する割合で示したもの です。

3年間の傾向として、 「自然に関する興味・関 心|「協調性・思いやりの 心」「成就感・達成感」に ついては、およそ80% の学校で、達成できたと 回答されています。また、 「健康増進」「感謝の心・ 奉仕する心」については、

20%前後という結果になりました。各学校がどのようなねらいを持って自然学校に取り組もうとされたのかが大きく 影響していると考えられます。

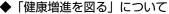
自然学校の一層の充実を図るために、特徴的な項目についてどのような活動が有効であるか考えてみます。

◆「自然に関する興味・関心を高める」について

ることなどを通してねらいに迫ることが出来ます。

"自然物クラフト" や "ナイトハイク"、今年度から取り入れている "自然発見! ウォーク"などが考えられます。また、"星空観察"は、天候に左右されやすい 活動であるので、例えば、事前学習で星座早見盤の使用方法を確認しておき、 5日間を通して、天気の良い日に星空を観察することも出来ます。

◆「集団生活を通して協調性を高め、思いやりの心を育てる」について "野外炊事"や"火おこし"、"自然散策オリエンテーリング"などが考えられ ます。また、"隠れ家づくり"では、設計図づくりから製作段階で班員の思いを まとめる話し合い活動や製作過程のロープで結ぶことや、丸太やはしごを支え



"円山川公苑での漕艇体験"や"ヒメハナ公園へのサイクリング"、"竹田城跡 登山"などが考えられます。 また、"朝来山登山"では、全員が一律のコース で登山するのではなく、児童の体力に応じて登山コースを選択させて取り組ん でいる学校があります。そうすることで、主体性や達成感などのねらいにも迫 ることが出来ます。

▶「成就感・達成感を味わわせ、新たな課題に取り組む意欲を育てる」について "ひのきーホルダーなどのクラフトづくり"や"朝来山・竹田城跡登山"、"隠 れ家づくり"などが考えられます。また、"木(竹)伐採体験"では、伐採を通し て生命あるものに対する畏敬の念をもち、間伐する意義を学ぶなどの価値付け をし、伐採した木材を使ってクラフトづくりに繋げていくことでねらいに迫る ことが出来ます。

平成26年度の成果と課題を踏まえて、自然学校がさらに充実したものとなり、"社 会的自立へのステップ"へと繋がるものとなるように、下見対応や出前講座等の機 会を通して、学校との連携を深めていきたいと考えています。

(文責 主任指導主事 御栗 康嗣)







南但馬自然学校における特色ある自然学校

人・地域とのふれあいを深めるウォークラリー 姫路市立坊勢小学校の取組より【平成26年9月22日(月)~26日(金)】

1 はじめに

今年度も、4泊5日の自然学校で「子どもたちに身に付けさせたい力は何か」を実施前にしっかりと考え、成果を挙げた利用校が多くありました。その中でも特に、テーマに「チカラをつける極上! 自然学校!」を掲げ、「人前

に出ることが苦手で、島育ちの子どもたちに、南但馬自然学校とその周辺の特色を生かして、学校では得難い体験をさせたい」という担当教員の願いが、プログラムに大きく反映された姫路市立坊勢小学校の取組を紹介します。

2 取組

姫路市立坊勢小学校(5年生児童数25名)は、上記のテーマのもと、さらに1日ごとのテーマ(例えば、「団結の日」「感謝の日」等)を設定することで、活動を焦点化し、自然学校を実施しました。そして、3日目「挑戦の日」に、ウォークラリーを行いました。

当初7つのチャレンジポイントをまわる与布土地区チャリラリー(サイクリング)を計画していましたが、あいにくの雨天のため、ポイント数を減らしウォークラリーに切り替え、実施しました。このウォークラリーには、以下の3つのミッションが設定されていました。

(ミッション1) 地図を見て次の7つのポイントにある問題に答えよ

・具体的には、山東郷土資料館でのチャレンジクイズに班員で考え答えるなど、子どもたちはそのポイントでのミッションを仲間と協力して解決していきました。

(ミッション2) 帰りにスーパーマーケット(こめやストアー与布土店) に寄って食材を購入せよ

・班ごとで、事前学習として考えた買い物リストに沿って、2,500円以内という金額で買えるか試行錯誤しながら、食材の買い出しを行っていました。

(ミッション3) 地域の人と一緒に写真を撮ること。また、グループ行動をし、決して5人離れてはならない。決して引率の先生に頼ってはならない

・子どもたちは与布土地区の人たちに積極的に声をかけ、班ごとに持参しているデジカメで写真撮影を したり、お寺で座禅をしたり、クリ、カボチャ等の作物を思いがけずいただくなど、地域の方との交流を深めていました。

3 まとめ

おわりに、このウォークラリーを終えた子どもたちの振り返りの一部を紹介します。

- ・クラスのみんな!!!いつもならはずかしがっているのに、今日は大きな声で人にも聞けるようになっていたヨ!
- ・知らない人に声をかけて聞く時に、けい語を使えたと思う。
- ・今日はいろんな人に出会ってはじめはきんちょうしたけど、自分からしゃべりかけることができました。
- ・今日は、ウォークラリーの買い物で一番安い物を、はずかしがらずに聞くのに挑戦できた!

この振り返りからも分かるように、子どもたちにとって、知らない人に道を聞いたり、値段を聞いたりすることは、まさしくこの日のテーマのとおり「挑戦」だったようです。また、この体験を通して、子どもたちは、次のような振り返りもしています。

- ・○○ちゃんが地図をちゃんと見てくれたから、最後までたどりつけた!
- ・男女関係なく、みんなで助け合ったり、協力し合ったりしていたので、安心して 過ごせました。
- 足がいたくてもガマンできた。

この活動を通して、子どもたちは、他人との関わり方を学び、社会性を身に付けるとともに、自分の良さや仲間の良さ、協力することの大切さを学ぶことができたようです。

坊勢小学校は、この活動以外にも、その日のテーマに沿って「竹伐採と竹食器づくり、竹の○○流し」「ドラム缶風呂入浴体験」「班ごとでの食材の買い出しからのチャレンジクッキング(野外炊事)」等を行っています。その様子は、本校ホームページ「自然学校」からご覧いただけます。

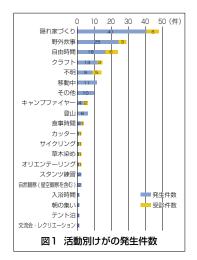
(文責:主任指導主事 山根 伸治)



健康で安全な自然学校にするために

よりよい自然学校にするために大切なことは、「児童がベストコンディションで参加し、活動できること」だと感じています。またそのためには、指導者による安全管理と健康・安全指導が不可欠です。そこで、本頁では安全指導のポイントと効果的な事前指導について紹介します。

1「安全指導チェックカード」を活用しよう ~平成 26 年度傷病統計より~



平成26年度傷病統計によると、外科的な訴えによる受診発生件数が増えています。受診件数の内訳を見ると、図1のように最も多いのが「隠れ家づくり」、続いて「野 外炊事」「自由時間」の順になっています。時間や場所を問わず、様々な世帯で傷病が変け、アンスことが

な場面で傷病が発生していることが わかります。

では、傷病発生を防ぐためには、何が必要なのでしょうか。私は、活動段階ごとの安全指導が重要であると考えています。 南但馬自然学校では、表1のような安全指導が起きでは、表1のような安全指導がというのでは動ごとに指導のポインランに指動のは、野外炊事、登山、隠れ家づより、立木(木・竹)の伐採)このチェ童の大き参考にすれば、児童の実態に応じた指導ポイントが見つ

表 1 隠れ家づくり安全指導チェックカード(クイズ形式)

NO	点 検 項 目	確認欄
1	長袖 <u>1 、 2</u> など作業にふさわしい服装を指示しましたか。	
2	長い髪をくくる、爪を短くしておく、靴ひもをしっかりくくって おく等、安全な身だしなみを指導しましたか。	
3	8準備させましたか。	
4	各班の隠れ家づくりの活動場所は、安全に配慮して決定しましたか。(切り株、岩等を確認しましたか)	
5	道具類(はしごやブランコ)の安全を確認しましたか。	
6	のこぎり、はしご、ブランコの安全な使い方を説明しましたか。 <u>(4</u> は必ず支えてもらう)	
7	ロープやひもの結び方について十分指導しましたか。	
8	作業中 道具、 5 類は安全に配慮して置かれていますか。	
9	隠れ家づくりでは走らない、周りの状況が安全かよく確認する、 道具類や丸太の安全な置き方等、安全な作業の仕方について分か りやすく説明しましたか。	
10	作成中や完成後の隠れ家の <u>6 性の確認</u> について指導し、 職員の共通理解をしましたか。(ロープの結びや耐久性)	

かりますし、指導者間の連携もとりやすくなります。平成27年度からは「自然

学校利用ガイドブック」に掲載しますので、ぜひご活用ください。※表1に「隠れ家づくり」編をクイズ形式で紹介します。 空欄に当てはまる語句を考えてみてください。(答えは本頁最後に載せています。)

2 事前指導の工夫と充実を図ろう

児童が自然学校の期間、ベストコンディションで活動し続けるためには、児童自身の健康管理意識を高めることが重要になります。そしてそれを高める鍵は、事前学習にあります。

以前、こんな場面に出会いました。遊んでいる最中に転倒し、膝に擦過傷を負った児童が、悲しげな様子で下を向いていました。その時、学級担任がそっと近づき、「こんな時、どうしたらよかったかなあ。」と声を掛けました。すると児童はハッと顔を上げ、近くにある水道を探し始めました。傷口の汚れを落すためです。教師の声かけにより、児童は学校で学んだ保健学習の内容を思い出し、その知識を実践に活かすことができたのです。このように、事前の指導が児童の健康管理意識を高めることにつながるのです。

さて、自然学校実施報告書から事前指導の項目を見てみると、 ①総合的な学習の時間における調べ学習(「危険な動植物」・ 「活動中の危険」について)、②家庭科における「元気な毎日 と食べ物」についての学習や「調理実習」などが挙げられて います。また、養護教諭による「規則正しい生活」の指導を 実施している学校もあります。

事前指導に充てられる時間は限られていますが、下記の例のように各教科と関連を持たせること等により、健康管理への意識は一層高まります。参考にしてみてください。

<例>

★5年生体育科「保健領域」との関連として

- ・「けがの防止」→ 自然学校活動中に発生が予測される けがとその手当を知る。
- ・「心 の 健 康」→ 家族から離れて生活することや集団 生活での不安や悩みの対処方法を考える。

表 2 季節や気候に合わせた保健指導のポイント

Z Z ZZ			
	季節の様子(天候・動植物)	指導内容	
4・5月	・屋と夜の気温差が激しい・紫外線が強くなる・危険な動植物の活動が始まる・花粉のシーズン	・気温にあわせての衣服の調節が必要 ・連休明けの疲れに注意 ・毒蛇、ハチ、ヒル等に注意 ・花粉などのアレルギー症状に注意	
6月	・気温、湿度が高くなる(梅雨)・天候が不順になりやすい	・食中毒発生率が高くなる、野外炊事の食材の取り扱いに注意・毒蛇、ハチ、ヒル等に注意・熱中症の防止	
7月	・気温、湿度が高い	・熱中症の防止	
9月	・危険な動物のシーズン・気温の高い日がある・秋の花粉のシーズン	・毒蛇、ハチ、ヒル等に注意 ・食中毒の予防 ・熱中症の防止	
10月	・昼と夜の気温差が激しい	・秋の花粉に注意 ・毒蛇、ハチ、ヒル等に注意 ・気温にあわせての衣服の調節が必要	
11月	・朝晩の冷え込みが厳しくなる ・感染症の流行が始まる	・気温にあわせての衣服の調節が必要 ・予防のため、手洗い・うがい、部屋の換気	

★保健指導に新たな視点を付け加える

・規則正しい生活の大切さに、表2のような季節や気候に合わせたポイントを付け加える。

3 アンテナを高く上げよう

自然学校終了後、ある児童から「野外炊事の片付けの時のアドバイスがうれしかったです。ありがとうございました。」とお礼の言葉が届きました。片付けに苦慮していた児童にとって、指導者の何気ない言葉が救いの手に思えたのでしょう。指導者の一言で、児童のやる気が向上し、前向きに活動できるようになります。心も元気になります。指導者が感性というアンテナを高く上げ、児童の様子をキャッチ(見守る)ことが、児童の心に響く一言になるのではないでしょうか。自然学校中の様子を見ていると、次の活動の準備等で忙しく、アンテナを上げられていない時も見受けられます。けれど、児童にとって4泊5日の自然学校は楽しみであると同時に不安でもあります。そんな時、普段の学校生活を共にしている教員の一言は大きいものがあります。実りある自然学校にするために、教員の安全や心身の健康に対する気づきを大切にした指導をして欲しいと願っています。

(支達 9 文戊 5 ごしむり 手軍 6 子師 2 ベホズラ I: 爻容のズトイ) (文章 主任指導主事 藤井 陽子)

平成 27 年度 講座・研修会のご案内

自然体験活動 1 日講座

的:様々な自然体験活動に係る技術や指導法について研修し、指導力の向上を目指 目 します。

象:神戸市を除く公立小・中学校及び特別支援学校教員(初任者研修及び10年経 験者研修の校外研修としても受講可)、指定された10年経験者研修受講の公立

高等学校教員 募集定員:各回40名程度

第1回 | 平成27年 6月30日(火) | 実習「自然に親しむ」(自然遊び・自然探索の指導) 第2回 平成27年10月 6日(火) 実習・演習「自然を感じる」(自然を感じるアクティビティの指導・開発) 第3回 | 平成 27年 11月 10日 (火) | 実習「自然物で創る」(竹伐採・自然物クラフトの指導)

自然学校出前講座

対

的:本校の職員が要請に応じて県下各学校等を訪問し、自然学校の事前学習等の支援を行います。 目

実施期日:平成27年4月~平成28年3月(実施日は各学校の要請をもとに調整します)

容:○自然学校に関すること

・自然学校の趣旨説明・事前相談・事前学習・事後学習・事後相談・保護者説明会(原則、本校を初め て利用する学校のみとする)※出前授業として、兵庫県立南但馬自然学校で展開されるアクティビティ の一部を行うことができます。(ロープワーク実習、火おこし体験、1人用テント設営、野外炊事実習等 ただし、火おこし体験のみでなく「事前相談と火おこし体験」「プログラムデザインと火おこし体験」 等の組み合わせの依頼をしてください)

○プログラムデザインに関すること

申込方法:実施1か月前までに「自然学校出前講座申請書」で申し込んでください。

※実施日については事前に本校との調整をお願いします。

自然学校講座(指導者入門)

的:自然学校の趣旨や指導者の役割を理解するとともに、野外体験活動等の実習を通して、指導者としての資 目 質向上を高めます。

期 日:前期 平成27年8月25日(火)~27日(木) ※1日または講座単位の受講も可

平成28年2月27日(土)~28日(日) ※1日または講座単位の受講も可

象:大学生、一般県民、県下の公立学校教員(前期は高等学校10年研修・初任者研修として受講可)、自然学校に関心のある者 対

募集定員:各回30名

内 容:前期 自然のお話と自然散策、ヒノキ伐採体験・クラフトの基礎基本、自然学校・野外活動におけるリス クマネジメント、遊具づくり体験、キャンプファイヤーの基礎基本、野外炊事指導の基礎基本

後期 キャンドルづくり、バウムクーヘンづくり、朝来山登山と登山の楽しみ方、天体望遠鏡の使い方と 星空観察、木伐採とクラフト、関連するプログラムづくり、プログラムデザイン 参加費:宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費が必要です。

プレ自然学校・アフター自然学校

的: 創意工夫を生かした体験活動の展開を支援、自然学校の事前・事後活動の 目 充実を図ります。

期 日:日帰り又は1泊2日

(1) 自然学校受入期間中 金曜日・土曜日受け入れ可 (金曜日から土曜日 にかけての1泊2日も可)

(2) 自然学校受入期間以外 いつでも受け入れ可

対 **象**:県内公立小中学校

容:施設散策オリエンテーリング、朝来山登山、自然体感ゲーム、クラフト、野外炊事、隠れ家づくり、テント泊等 内 ※詳しくは、兵庫県南但馬自然学校指導課までお問合せください。

親子で自然学校(〜親子で南但馬自然学校を楽しもう〜

日:第1回 平成27年 5月 2日(土) \sim 5月 3日(日) 第2回 平成27年 8月22日(土) \sim 8月23日(日) 第4回 平成28年 1月30日(土)~1月31日(日) 第5回 平成28年 3月 12日(土)~3月 13日(日) 平成27年 12月 19日(土)~12月 20日(日)

参加費:約3,000円程度(食事代・宿泊・リネン料、活動材料費、保険料)

対 象:原則として県内の小学生とその保護者 ※原則1泊2日ですが、日帰り希望も受け付けます。

募集定員:各回10組(40名程度)

容:山菜さがし、竹クラフト、自然と遊ぼう、あかりを囲んで(家族交流会)バードウォッチング、キャンプファ 内 イヤー、朝来山登山、自然物クラフト、星空観察、野外炊事、手打ちうどんづくり、きのこ菌の植え付け、竹田

城跡を望む春山ハイキング 等 申込み:事前に参加申込が必要です。各回の実施日10日前までにお送りください。(第1回については5日前まで)

~感動!発見!を南但馬自然学校で~

日:第1回 平成27年 5月 2日(土)9:30~ 「新緑の里山を楽しもう!~森の山菜さがし~」 期 第2回 平成27年 7月 11日 (土) 9:30~ 「初夏の里山を楽しもう!~水辺の生き物さがし~」

第3回 平成27年 10月 24日 (土) 9:30~「紅葉の里山を楽しもう!~さつまいも掘りとどんぐりひろい~」

参加費:各回50円(保険料)

象:一般県民 (子どもだけの参加はご遠慮ください) 対

申込み:事前に参加申込が必要です。各回実施日の5日前までにお送りください。

※詳しくは、 兵庫県立南但馬自然学校 指導課 (079-676-4731)まで お問合せください



●〒 669-5134 兵庫県朝来市山東町迫間字原 189 ● TEL(079)676-4730 ● FAX(079)676-4008



